



フォーラムたより

2015年 10月号

No. 46

フォーラム発足30年

首都圏フォーラムに望むもの

(2011年～2013年議長在任)



田中元雄

ない中、その場をもっていた金光教に乗ってきた。「人を助けたい」という心の向きが一つになっていった。そうした活動の中で、現地では支援機構のボランティアハウスに泊まり、食事を共にし、ミーティングに集う。朝のご祈念に参拝する未信奉者もいた。そのように開かれた場で、人々が交流し、いろいろな思いを共有した。

私が首都圏フォーラム議長として御用させて頂いた三年間、その多くを東日本大震災復興支援活動に力を注ぐことになった。

ボランティア活動を通してとても有り難かったのは、信奉者のネットワークができたことである。ボランティア活動に行く方々、行けないけどお役に立ちたいと願われる方々と、連帯の絆で結ばれたことである。さらに、未信奉者との間にも、「さあ、助けに行こう」という同じ心の向きで連帯出来たことは、とてもうれしいことであった。未信奉者にとつては、現地に行けるチャンスが少

ない中、その場をもっていた金光教に乗ってきた。「人を助けたい」という心の向きが一つになっていった。そうした活動の中で、現地では支援機構のボランティアハウスに泊まり、食事を共にし、ミーティングに集う。朝のご祈念に参拝する未信奉者もいた。そのように開かれた場で、人々が交流し、いろいろな思いを共有した。

際センター、金光新聞東京支局がある。それらの機関と首都圏フォーラムという教会の連帯布教、社会・平和活動を担う実働隊、つまり、信徒会、女性の会、青年信奉者、少年少女育成などの活動、あるいは平和、ボランティア活動など、様々なネットワークがある。しかしながら、これらの結びつきは全体としてもっと有機的につながる必要がある。社会に向けて、世界に向けて、個々の教会ではなし得ないことが、教務、教会、グループの枠を越えて協働し、大きな力となってほしい。世界布教という視点からも、東京には多くの外国人がおり、かれらに日本文化、その中心である宗教について、つまり金光大神の道を伝えていくことができるのである。「布教と連帯」、そのテーマを広く捉えて、「布教する」という積極的な意図とともに、「布教になる」という取り組みも必要だ。ボランティアのみならず、世界平和のために出来ることを力強く展開していくことを願っている。

首都圏布教御礼祈願祭並びに東日本大震災復興祈願祭



352 柱のご霊神さまに布教展開を祈願

た遙拝式には17名が参拝した。

首都圏布教は今年127年を迎え、同祭典は、天地金乃神様、生神金光大神様、金光四神様・歴代金光様、そして首都圏布教にご尽力くださった直信先覚先師先人352柱の霊神様に、今日までの首都圏布教の御礼と、これからの展開を祈願した。

第26回首都圏布教御礼祈願祭並びに第5回東日本大震災復興祈願祭は、6月19日、17時から、金光ウイングやつなみ南ホールで行われ、127名が参拝。同時に金光教センタービル3階で行われ

まず祭典前に映像で、「首都圏布教の歩み」が上映され、初代白神新一郎師が大阪に布教し、それを受けられた近藤藤守師、そして

畑徳三郎師、大場吉太郎師、虎谷吉兵衛師が、その思いを受けて、今日まで首都圏布教が続いている歴史が紹介された。



祭典では、祭主を務められた和泉正一議長が「教団独立と首都圏布教」と題して講話。

また金光教センタービルでは、インターネット中継で御礼祈願祭の様子映し出され、鈴木宏政師の祭主により遙拝式が仕えられ、祭典後は、直会宴も催された。

おめでとうございます

●四十年受褒教師

- 鈴木敏子師 (東京都小金井教会)
- 仁後成男師 (東京都大岡山教会)
- 靄見和子師 (東京都白金教会)
- 増田誠夫師 (東京都八王子教会)
- 西村夏夫師 (東京都本郷教会)
- 南清孝師 (神奈川県登戸教会)
- 小柴宣和師 (東京都杉並教会)
- 奥川美登子師 (神奈川県平塚教会)

●新任教師

- 安西修一師 (千葉県木更津南教会)

運動推進を願って合同研修

茨城・栃木教会連合会は6月20日、小山市生涯学習センターを会場に教師信徒合同研修会を開催し、23名が参加した。

「神人あいよかけよの生活運動」推進を願って、佐藤輝男さん(結城教会)が「傾聴ボランティアを通して感じたこと」と題して、「傾聴によって相手が助かっている」と、館野紀久平さん(宇都宮教会)が「難はみかけ Before After」と題して、「53歳でサラリーマン生活に行き詰まり、以後自然に触れ合うことによる人の助けを生きがいにしていく」と、それぞれの実践内容を発表した。

昼食後、3班に分かれて発表内容や各自の運動への取り組みについて意見交換を行い、全体懇談をした。

最後に結城教会長・大木先生(東京センター所長)から、「現在多くの青少年が少子化と競争、格差の中で生きずらさを抱えて悩んでいる。『神心となつて 人を祈り助け 導き』という運動の中身を実践し、孤立化させずに手を差し伸べる事ができるような教会を目指して、教師と信徒が知恵を絞り協力していきたい」との感話があった。



わかばの成長を願って



千葉県教会連合会は8月2日(日)〜3日(月)の両日、「清和県民の森」(君津市)において6回目となる青少年女の集い(キャンプ)を開催し、6名の子どもを含む24名が参加。天気に恵まれ自然の中で楽しい一時を過ごした。

一日目は、キャンプ場近くにある大滝で水遊び。暑い中で涼を感じた後は、昔ながらの遊びとして竹で作ったポックリ下駄を造った。思った以上に子ども達は食いつき、製作が間に合わないほど。

2日目はハイキング。去年より厳しい道のりになったが、子ども達は元気に約3時間のコースを踏破。子ども達は、途中にある山の生物や植物の説明に目を輝かせ、いろいろな動植物がいることに感心していた。

最後に子ども達一人ひとりから感想を聞き、「楽しかった」「ハイキングが大変だったけど、歩いて良かった」「大滝での水遊びが楽しかった」などの言葉に、お世話をした大人達も苦勞が報われる思いであった。

伊豆大島慰霊・復興応援ツアー

東京都教会連合会は7月11日(土)〜12日(日)、伊豆大島慰霊・復興応援ツアーを開催し、17名が参加した。

一行は初日朝、竹芝客船ターミナルをジェット船で出発し、大島岡田港に到着。マイクロバスで伊豆大島教会に参拝した。和泉正一都連会長の先唱で御祈念、お届けの後、大沼先生によるお話し、お嬢さんの牧野立子さんの被災当初の話を聞かせて頂いた。

午後は、神達地区・献花台・海岸などで犠牲者慰霊・不明者発見・大島復興の御祈念をし、弘法浜の清掃ボランティアを行った。



二日目は3つの班に分かれ、観光や登山、見学、土産物などを購入して大島の復興支援を行い、帰途についた。

二日間とも天気に恵まれ、参加された方々は、被災された方々の立ち行くと大島のこれからの安全と真の復興・発展を祈念させて頂き、それぞれの教会に帰って、この思いを皆さんに伝えたいと語っていた。

天地の恵みに感謝



した。

雨模様であった天候も、神奈川県からの参加者が横浜駅西口に集合した頃にはすっかり雨は上がり、一行21名は貸切バスに乗り、午前8時半山梨県南アルプス市に向けて出発した。

渋滞が予想された高速道路もスムーズに走行し、車中では子どもから大人まで参加してのゲームで楽しみ、山梨県に入るにつれて快晴となった。車窓から雄大な富士山を眺めることができた。

バスは時間前に山梨県の待合せ場所に到着、山梨県から参加した11名と合流して開会行事を行い、その後、大明教会のご信者のさくらんぼ農園に向かい、「さくらんぼ狩り」を楽しんだ。

初体験の参加者も多く、赤く色づいた甘く美味いさくらんぼを天地の恵みに感謝しながら、1時間ほど味わった。

その後、22名がバスで「やまなみの湯」に移動。子ども達はプールに、大人達は温泉に入ったり、昼食を取ったり、くつろいだりして帰途についた。

この度の集會では、天地の恵みと農園の方々へ感謝しながら、旬の味なさくらんぼを存分味わうことができ、また神奈川県・山梨県の信奉者が親睦をおして交流できたことは、大変有り難く有意義な集會であった。

神奈川県・山梨県教会連合会育成部は6月6日(土)、「みんなのつどいⅡ」さくらんぼ狩り集會を開催

群馬・埼玉教会連合会は7月12日、「あーとほーる鈴座」(桐生市)で「戦後70年を迎えて、すべての人に平和と生命の尊さを」をテーマに公開講演会を開催し、未信奉者など108名が来場した。

第一部は、沖縄県那覇教会長の林雅信先生から「平和和(ひと)にかける願い」と題する講演があった。

戦後70年を迎えて

平和をテーマに公開講演会



講師は、沖縄戦について、『この世にあるだけの地獄を一方所にまとめたような戦争だった』『生きるために戦うもの(米軍)と、死ぬために戦うもの(日本軍)との世界史上空前絶後の大決戦』とアメリカの従軍記者の残した言葉を紹介。広島、長崎に原爆を投下したB-29が、テナン島に帰る

べた。

そして、霊和については、「霊は霊能、優れた能力であり、和は適合、調和である。優れた能力を具備してまとまったものが人の定

義である。金光教では、人の苦しみ分かる、人を助けてあげたいという分けみたまの働きがある。かわいそうと思う気持ちと仲良くするという気持ちがあれば戦争は起こらない。人間であるけれども、霊和であるという自覚を持つことから平和は生まれてくる。戦争がなければ、平和という言葉は必要ない。平和という言葉を使わなくても済む世界を実現しなければならぬ」と結んだ。

第二部では、雅樂器の説明や演奏、沖縄や地元桐生の名産品が当たる抽選会があり、最後に来場者全員で「四季のうた」「夏の思い出」「花は咲く」を合唱して幕を閉じた。

発行者 金光教首都圏フォーラム
議長 和泉正一
発行日 平成27年10月1日
http://shutoken.konko.jp/